

平成 29 年度「逗子市学習状況調査」の分析結果(中学校)

○はじめに

平成 29 年 4 月 18 日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の生徒の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および生徒の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内中学校 2 年生を対象とし、国語、社会、数学、理科、英語の 5 教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

○実施状況

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| (1) 調査実施日 | 平成 29 年 4 月 18 日 (火) |
| (2) 実施教科 | 教科に関する調査 (国語、社会、数学、理科、英語) |
| (3) 実施学校・学年・調査数 | 逗子市立中学校 2 年生 325 名 |

○各教科の調査結果 (正答率)

各教科の調査結果について以下に示す。正答率では、国語が最も高く 73.9%という数値を示している。英語、数学、社会では、それぞれ 60.6%、57.9%、56.9%となっており、理科については 53.2%と最も低い数値となっている。

表 各教科の調査結果 (正答率)

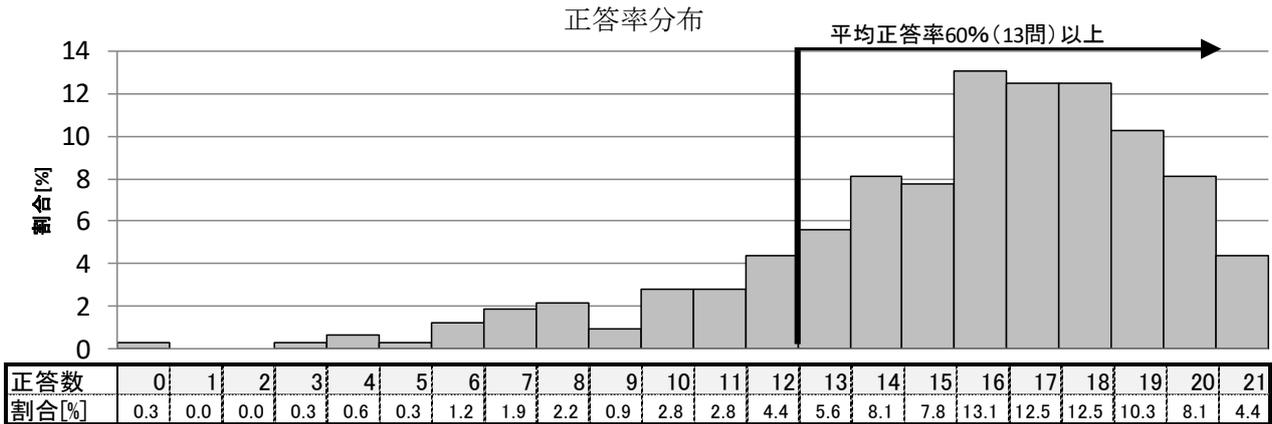
教科	調査生徒数	平均正答率
国語	321 名	73.9%
社会	320 名	56.9%
数学	325 名	57.9%
理科	324 名	53.2%
英語	324 名	60.6%

・ 国語

調査児童数	321人
平均正答数	15.5問 /21問
平均正答率	73.9%
中央値	16問
最頻値	16問

全体的な結果について

- ・ 国語は、調査生徒数 321 人にて実施をした。その結果、平均正答数 15.5 問、平均正答率が 73.9%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の約 8 割を占めている。
- ・ 正答率分布をみると、全体的に右寄りの山形となっていることから、各生徒に学習内容がおおむね定着していると考えられる。



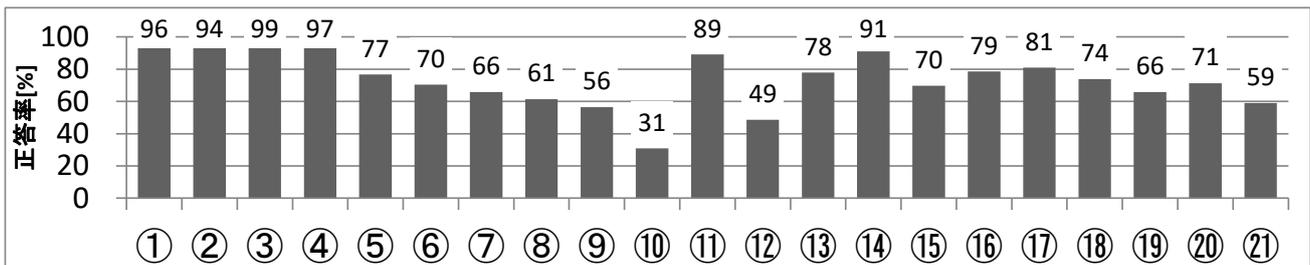
正答率が 80%以上の設問

- ・ 問一（1）漢字の読みにおいては、いずれも平均正答率は 9 割と良好な結果となっている。

正答率が 40%未満の設問

- ・ 問一（4）主語と述語・修飾語と被修飾語においては、正答率が 30.8%と低く、文の中における主語と述語との関係の理解を多くの生徒が苦手としていることがわかる。

各設問における平均正答率



対 応 グ ラ フ	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎 正答率 [%]
			書く 能力	読む 能力	言語につ いての知 識・理解・ 技能	
問一	(1)	漢字の読み	○	○	○	95.6
			○	○	○	94.1
			○	○	○	98.8
			○	○	○	96.6
	(2)	漢字の書き	○	○	○	76.6
			○	○	○	70.4
			○	○	○	65.7
			○	○	○	61.4
	(3)	歴史的仮名遣い			○	56.4
	(4)	主語と述語 修飾語と被修飾語			○	30.8

対 応 グ ラ フ	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎 正答率 [%]
			書く 能力	読む 能力	言語につ いての知 識・理解・ 技能	
問二	(1)	登場人物の心情把握		○		89.1
	(2)	文脈における語句の 意味の理解		○		48.6
	(3)	登場人物の心情把握		○		77.9
	(4)	登場人物の心情把握		○		91.0
	(5)	登場人物の心情把握		○		69.8
問三	(1)	接続詞の補充		○		78.5
	(2)	指示語の内容の把握		○		81.0
	(3)	文脈における語句の 意味の理解		○		73.8
	(4)	段落相互の関係把握・ 段落の働き		○		65.7
	(5)	要旨の把握		○		71.3
問四	(21)	条件作文	○			59.0

観点別にみた正答率

観点	設問数	平均正答率	
書く能力	1問	59.0%	59.0
読む能力	10問	74.7%	74.7
言語についての知識・理解・技能	10問	74.6%	74.6

・観点別の平均正答率については、「書く能力」（設問 1 問）が 59.0%、「読む能力」（設問 10 問）が 74.7%、「言語についての知識・理解・技能」（設問 10 問）が 74.6%と概ね良好な結果となっている。

・「書く能力」の設問について平均正答率を見ると『条件作文』に関する問題が 59.0%となっており、苦手とする生徒がまだある程度いることから、もっと多くの生徒の理解を高める必要がある（問四）。

・「読む能力」については、『登場人物の心情把握』に関する質問の一部では 91.0%と高い正答率になっている（問二（4））。一方『文脈における語句の意味の理解』に関する

質問の一部では正答率が 48.6%となっており、場面の展開や登場人物などの描写や会話を注意して読み、その場面における心情を読み取ることを苦手としている生徒が多いことがわかる。（問二（2））。

・「言語についての知識・理解・技能」については、『漢字の読み』が 9 割台とそれぞれ高い正答率となっている（問一（1））。一方『主語と述語、修飾語と被修飾語』については正答率が 30.8%となっており、文の中における主語と述語の関係についての理解を苦手としている生徒が多いことがわかる。（問一（4））。

観点別にみた指導の工夫・改善

書く能力について	○授業では目的にあった内容と構成であるか、推敲する習慣を身に付けさせることが必要です。また、生徒同士が書いたものを読みあい、意見交換やアドバイスをし、さらに良い表現につなげるような学びあい活動にぜひ取り組みたいものです。（問四）
読む能力について	○文学的な文章を読む際には、登場人物の言動に注意して読み、叙述に即してその意味や心情を考えることが大切です。また、文脈に即して語句の意味を的確にとらえたり、文章全体における語句の役割を考えたりすることも重要となります。語彙を豊かにするためにも、生徒が読書の幅を広げ、読書に親しむ機会を充実させていきましょう。（問二（2））
言語についての知識・理解・技能について	○文の成分は、中学校 1 年生で学習しますが、「主語と述語」については小学校低学年から、「修飾と被修飾」については中学年から扱っている事項です。小・中の連携の面からも、小学校での具体的な指導、取組について把握した上での継続した指導が望まれます。文の基本となる骨組みを確実に読み取る力、また日常生活における話の中心を聞く力の育成のために、文法の時間だけではなく、国語の授業における文章や、日常の発言の機会をとらえて主語と述語を中心とした言葉の成分を意識させる工夫が必要です。（問一（4））

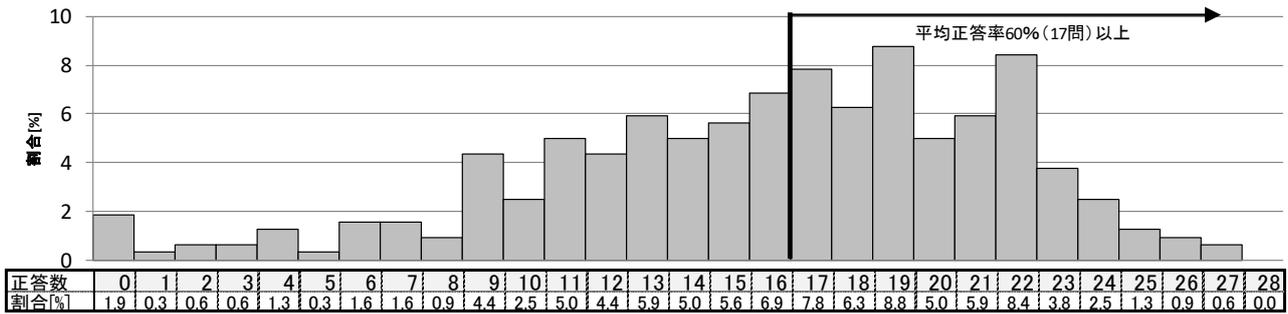
・ 社会

調査児童数	320人
平均正答数	15.9問 /28問
平均正答率	56.9%
中央値	17問
最頻値	19問

全体的な結果について

- ・ 社会は、調査生徒数 320 人にて実施をした。その結果、平均正答数 15.9 問、平均正答率が 56.9%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 5 割程度となっている。
- ・ 正答率分布をみると、全体的に中央寄りの山形となっていることから、各生徒に学習内容のより一層の定着を図る必要があると考えられる。

正答率分布



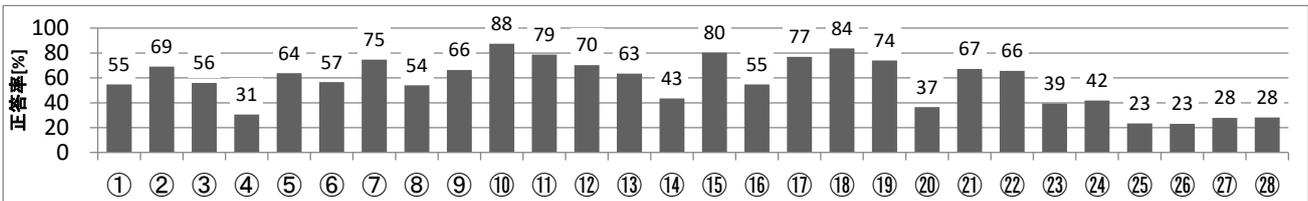
正答率が 80%以上の設問

- ・ 問二 (2) (イ) 世界の様々な地域については平均正答率が 87.5%となっており、良好な結果となっている。

正答率が 40%未満の設問

- ・ 問一 (3) 世界の地域構成については平均正答率が 30.6%と低く、多くの生徒が苦手としていることがわかる。
- ・ 問六 中世の日本については、平均正答率が 2~3 割程度にとどまるものが多く、苦手としている生徒が多いことがわかる。

各設問における平均正答率



対応プログラム 番号	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎 正答率 [%]
			社会的な 思考・判断・表現	観察・資料 活用技能	社会的な 事象についての 知識・理解	
①	(1)	世界の地域構成			○	54.7
②	(2) (ア)				○	69.1
③	(イ)				○	55.9
④	(3)			○		30.6
⑤	(4) (ア)	世界の様々な地域			○	63.8
⑥	(イ)			○		56.6
⑦	(1) A				○	74.7
⑧	B				○	54.1
⑨	(2) (ア)	世界の様々な地域		○		66.3
⑩	(イ)			○		87.5
⑪	(3)			○		78.8
⑫	(4)			○		70.3
⑬	(1)	世界の様々な地域	○			63.4
⑭	(2)			○		43.4
⑮	(3)			○		80.3
⑯	(4)			○		54.7

対応プログラム 番号	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎 正答率 [%]
			社会的な 思考・判断・表現	観察・資料 活用技能	社会的な 事象についての 知識・理解	
⑰	(1)	古代までの日本			○	76.9
⑱	(2)				○	83.8
⑲	(3)				○	74.1
⑳	(4)	歴史のとらえ方			○	36.6
㉑	(1)	古代までの日本			○	67.2
㉒	(2)			○		65.6
㉓	(3)			○		39.4
㉔	(4)				○	41.9
㉕	(1)	中世の日本			○	23.4
㉖	(2)			○		23.1
㉗	(3)			○		27.8
㉘	(4)				○	28.1

観点別にみた正答率

観点	設問数	平均正答率	
社会的な思考・判断・表現	8問	53.5%	53.5
観察・資料活用の技能	5問	55.4%	55.4
社会的事象についての知識・理解	15問	59.1%	59.1

・観点別の平均正答率については、「社会的な思考・判断・表現」(8設問)が53.5%、「観察・資料活用の技能」(5設問)が55.4%、「社会的事象についての知識・理解」(15設問)が59.1%と一部のsを除き概ね良好な結果となっている。

・「社会的な思考・判断・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『古代までの日本』に関する問題の一部が83.8%と多くの生徒に理解されている(問四(2))。一方『中世の日本』に関する問題では正答率が2割台となっており、日本の中世における社会の変化の様子について正しく認識することを苦手とする生徒が多いことがわかる(問六(2))。

・「観察・資料活用の技能」については、『世界の様々な地域』に関する問題の一部が80.3%と高い正答率となっている(問三(3))。一方、『世界の地域構成』の一部の設問については正答率が30.6%となっており、地図には目的により様々な種類があり、方位を知りたいときにどのような地図を活用すればよいかを判断することを苦手とする生徒が多いことがわかる(問一(3))。

・「社会的事象についての知識・理解」については、『世界の様々な地域』に関する問題の一部が78.8%と高くなっている(問二(2)(イ))。一方、『中世の日本』に関する問題の一部では正答率が23.4%となっており、日本の中世の転換点となった主な事象の流れについての理解が不足している生徒が多いことがわかる(問六(1))。

観点別にみた指導の工夫・改善

社会的な思考・判断・表現について	○略年表に示された事象は、いずれも社会の転換点となった事象です。A～Cで示された事項の他にも、文永の役・弘安の役の後、軍役の負担の一方で、恩賞を与えられなかった御家人たちの生活が苦しくなり、鎌倉幕府滅亡の要因になったことも押さえておく必要があります。(問六(2))
観察・資料活用の技能について	○地図には用途により様々な種類があり、正距方位図法がどのような特色をもつ地図であるかを確認することが大切です。さらに地球儀を使用して地図で示す都市や大陸がどこにあるのか、地図で示す経路を紙テープで実際に確認するなど、具体的に理解することが大切です。(問一(3))
社会的事象についての知識・理解について	○ポイントとなる事象について、いつ頃、誰が中心となったのか、なぜ起きたのか、どのようになったのか、を図等で整理しておくといでしょう。(問六(1))

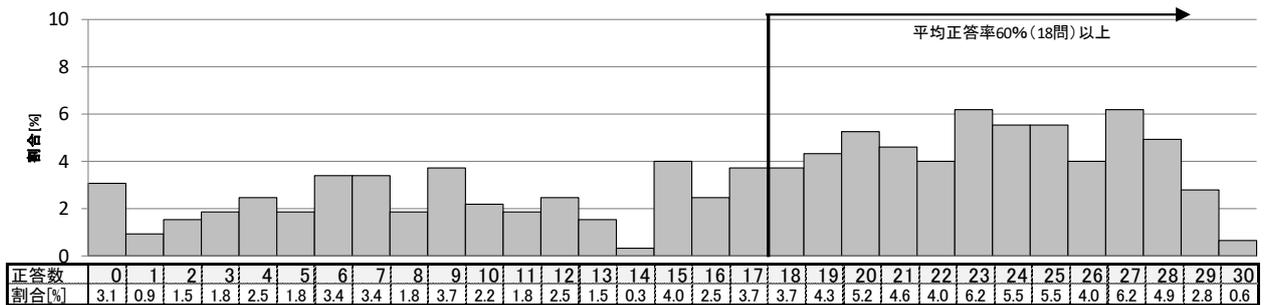
数学

調査児童数	325人
平均正答数	17.4問 /30問
平均正答率	57.9%
中央値	19問
最頻値	23問

全体的な結果について

- ・数学は、調査生徒数 325 人にて実施をした。その結果、平均正答数 17.4 問、平均正答率が 57.9%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 5 割半ば程度を占めている。
- ・正答率分布をみると、全体的にはほぼ均等な分布となっており、低い正答率の生徒も多いことから、各生徒に学習内容のより一層の定着を図る必要があると考えられる。

正答率分布



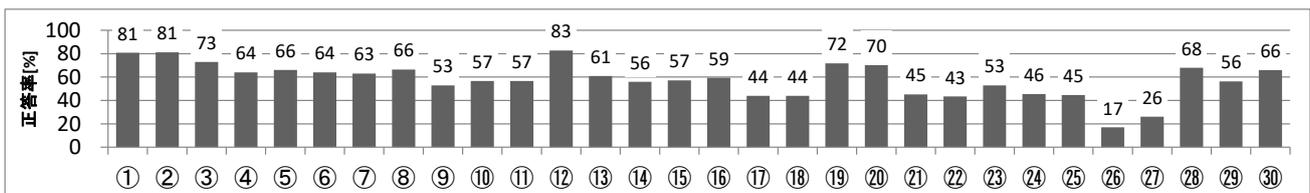
正答率が 80%以上の設問

- ・問三（２）（ア）一次方程式は平均正答率が 82.8%となっており、良好な結果となっている。

正答率が 40%未満の設問

- ・問六（２）（ア）立体の展開図は 16.9%と正答率が低く、展開図に着目して対角線の長さを判断することを苦手とする生徒が多いことがわかる。
- ・問六（２）（イ）円柱の表面積については 26.2%と低い正答率となっており、多くの生徒が苦手としていることがわかる。

各設問における平均正答率



対応番号	問題番号	問題の内容	評価の観点		設問毎正答率 [%]
			数学的な考え方	数量や図形などについての技能	
①	(1)	減法		○	80.9
②	(2)	加法と減法		○	81.2
③	(3)	分数の加法		○	72.9
④	(4)	指数の計算		○	64.0
⑤	(5)	四則の混じった計算		○	66.2
⑥	(6)	正負の数の乗除		○	64.0
⑦	(1)	乗法と除法の表し方		○	63.1
⑧	(2)	分配法則		○	66.5
⑨	(3)	文字を使った式の表し方		○	52.9
⑩	(4)	不等式		○	56.6
⑪	(1)	方程式の解の意味		○	56.6
⑫	(2)	(ア)		○	82.8
⑬	(イ)	一次方程式		○	60.9
⑭	(3)			○	56.0
⑮	(4)	比例式		○	57.2
⑯	(5)	(ア)		○	59.4
⑰	(イ)	一次方程式の利用		○	44.0

対応番号	問題番号	問題の内容	評価の観点		設問毎正答率 [%]
			数学的な考え方	数量や図形などについての技能	
⑱	(1)	比例のグラフ		○	44.0
⑲	(2)	(ア)		○	71.7
⑳	(イ)	反比例の関係式		○	70.2
㉑	(3)	関数関係	○		45.2
㉒	(1)	垂直二等分線の作図	○		43.4
㉓	(2)	対称移動		○	52.9
㉔	(3)	角柱の表面積		○	45.5
㉕	(1)		○		44.6
㉖	(2)	立体の展開図	○		16.9
㉗	(イ)	円柱の表面積		○	26.2
㉘	(ア)			○	68.0
㉙	(イ)	代表値		○	56.3
⑳	(2)	資料の傾向	○		65.8

観点別にみた正答率

観点	設問数	平均正答率	
数学的な考え方	7問	45.6%	45.6
数量や図形などについての技能	15問	63.1%	63.1
数量や図形などについての知識・理解	8問	58.7%	58.7

・観点別の平均正答率については、「数学的な考え方」(7設問)が45.6%、「数量や図形などについての技能」(15設問)が63.1%、「数量や図形などについての知識・理解」(8設問)が58.7%と一部の問題を除き概ね良好な結果となっている。

・「数学的な考え方」の各設問について平均正答率を見ると、『資料の傾向』に関する問題が65.8%と比較的多くの生徒に理解されている(問七(2))。一方、『立体の展開図』についての正答率は16.9%となっており、展開図に着目して対角線の長さを判断することを苦手とする生徒が多いことがわかる(問六(2)(ア))。

・「数量や図形などについての技能」についての正答率は、『一次方程式』に関する問題が82.8%、『加法と減法』に関する問題が81.2%と多くの生徒に理解されている(問三(2)(ア)、問一(2))。一方、『円柱の表面積』に関する問題の正答率は26.2%となっており、基本的な錐体の体積を求めることを苦手とする生徒が多いことがわかる(問六(2)(イ))。

・「数量や図形などについての知識・理解」については、『反比例』に関する問題の正答率が71.7%と多くの生徒に理解されている(問四(2)(ア))。一方、『比例のグラフ』に関する問題では正答率が44.0%となっており、比例のグラフを正しく選ぶことができない生徒が多いことがわかる(問四(1))。

観点別にみた指導の工夫・改善

数学的な考え方について	○具体的な空間図形について、その見取図、展開図、投影図を用い、図形の各要素の位置関係を調べることを通して、論理的に考察し表現する能力を養う場面を設定しましょう。(問六(2)(ア))
数量や図形などについての技能について	○柱体の体積との関係を予想させ、その予想が正しいかどうか模型を用いたり実験による測定を行ったりして確かめる場面などを設定しましょう。また、実際に立体を観察したり、それを用いて説明したりする活動を充実させましょう。(問六(2)(イ))
数量や図形などについての知識・理解について	○表、式、グラフを用いて表す時、これらを並列的に扱ったり、別々のものとして扱うのではなく、これらの表し方を相互に関連付け、一体となって理解できるように指導しましょう。(問四(1))

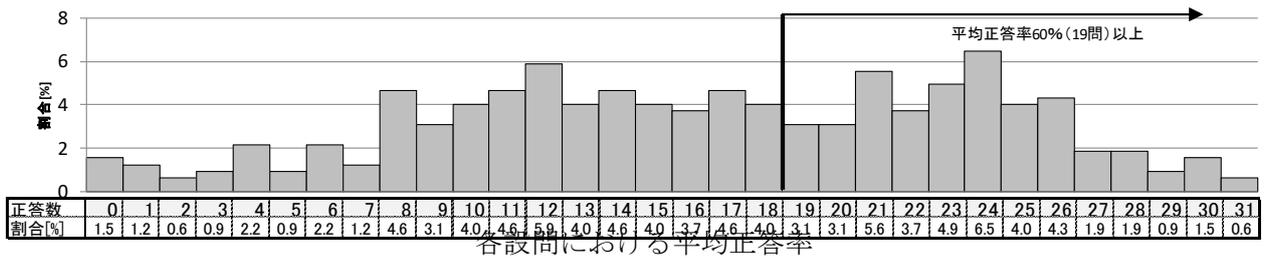
理科

調査児童数	324人
平均正答数	16.5問 / 31問
平均正答率	53.2%
中央値	17問
最頻値	24問

全体的な結果について

- 理科は、調査生徒数 324 人にて実施をした。その結果、平均正答数 16.5 問、平均正答率が 53.2%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の 4 割程度にとどまった。
- 正答率分布をみると、全体的にはほぼ均等な分布となっており、低い正答率の生徒も多いことから、各生徒に学習内容のより一層の定着を図る必要があると考えられる。

正答率分布

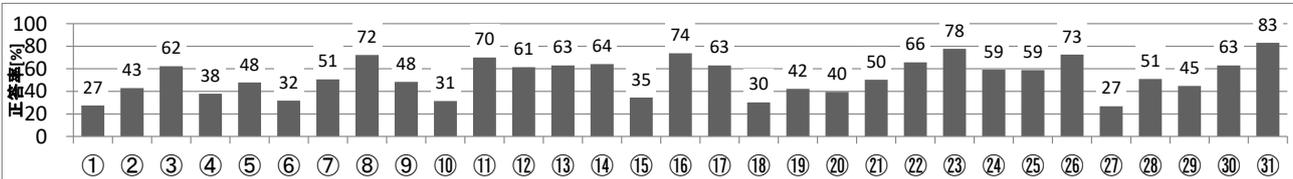


正答率が 80%以上の設問

- 問十（3）地層の重なりと過去の様子（示相化石と過去の環境）において、平均正答率が 83.0% と良好な結果となっている。

正答率が 40%未満の設問

- 問一（1）生物の観察（顕微鏡の操作手順）や、問九（2）火山活動と火成岩（安山岩のつくり）の設問で平均正答率が 2 割程度となっており、多くの生徒が苦手としていることがわかる。



対 応 番 号	グ ラ フ	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎 正答率 [%]
				科学的な 思考・表 現	観察・実 験の技能	自然事象 についての 知識・理解	
①	問一	(1)	生物の観察(顕微鏡の操作手順)		○		27.5
②		(2)	生物の観察(顕微鏡の操作)			○	42.9
③		(3)	生物の観察(ルーペの操作手順)		○		62.3
④	問二	(1)	植物の仲間 (植物のからだのつくりや特徴)			○	38.0
⑤		(2)	植物の仲間 (双子葉類、単子葉類の特徴)			○	47.8
⑥		(3)	植物の仲間(コケ植物、シダ植物)			○	31.8
⑦	問三	(1)	植物の体のつくりと働き (呼吸、光合成)	○			50.6
⑧		(2)	植物の体のつくりと働き(気孔)			○	72.2
⑨		(3)	植物の体のつくりと働き(気孔)			○	48.5
⑩	問四	(1)	状態変化(融点と沸点から 物質の状態を予想する)	○			31.5
⑪		(2)	状態変化(分留)	○			70.1
⑫		(3)	状態変化(沸点)	○			61.4
⑬		(4)	状態変化(ガスバーナーの使い方)		○		63.0
⑭	問五	(1)	水溶液 (質量パーセント濃度の求め方)			○	64.2
⑮		(2)	水溶液(溶解度を読み取る)	○			34.6
⑯		(3)	水溶液(溶解度を読み取る)	○			73.8
⑰	問六	(1)	物質のすがた(密度の計算を して物質を特定する)			○	63.0
⑱		(2)	物質のすがた (メスシリンダーの使い方)			○	30.2
⑲		(3)	物質のすがた (メスシリンダーの使い方)		○		42.3
⑳	問七	(1)	音の性質(弦の長さや音の高低)	○			39.5
㉑		(2)	音の性質(オシロスコープ)	○			50.3
㉒		(3)	音の性質(音の速度)			○	65.7
㉓	問八	(1)	力と圧力(力の大きさの表現)			○	77.8
㉔		(2)	力と圧力(フックの法則)			○	59.3
㉕		(3)	力と圧力(浮力)			○	59.0
㉖	問九	(1)	火山活動と火成岩 (マグマの粘り気と火山の形状)			○	72.5
㉗		(2)	火山活動と火成岩 (安山岩のつくり)			○	26.9
㉘		(3)	火山活動と火成岩 (火成岩のつくり)			○	50.9
㉙	問十	(1)	地層の重なりと過去の様子 (しゅう曲)			○	44.8
㉚		(2)	地層の重なりと過去の様子 (堆積岩の種類と特徴)			○	63.0
㉛		(3)	地層の重なりと過去の様子 (示相化石と過去の環境)			○	83.0

観点別にみた正答率

観点	設問数	平均正答率	
科学的な思考・表現	9問	49.1%	49.1
観察・実験の技能	5問	50.9%	50.9
自然事象についての知識・理解	17問	56.0%	56.0

・観点別の平均正答率については、「科学的な思考・表現」(9設問)が49.1%、「観察・実験の技能」(5設問)が50.9%、「自然事象についての知識・理解」(17設問)が56.0%と一部を除き、概ね良好な結果となっている。

・「科学的な思考・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『状態変化(分留)』に関する問題が70.1%と多くの生徒に理解されている(問四(2))。一方『物質のすがた(密度の計算をして物質を特定する)』についての正答率は30.2%となっており、密度の概念と求め方についての正しい理解が不足している生徒が多いことがわかる(問六(2))。

・「観察・実験の技能」については、『状態変化(ガスバーナーの使い方)』に関する問題の正答率が63.0%と多くの生徒に理解されている(問四(4))。一方、『生物の観察(顕微鏡の操作手順)』に関する問題の正答率は27.5%となっており、顕微鏡の各部の名称や操作方法に対しての理解が不足している生徒が多いことがわかる(問一(1))。

・「自然事象についての知識・理解」については、『地層の重なりと過去の様子(示相化石と過去の環境)』に関する問題の正答率が83.0%と多くの生徒に理解されている(問十(3))。一方、『火山活動と火成岩(安山岩のつくり)』に関する問題の正答率は26.9%と低く、マグマの性質と火山の形の関係や火成岩についての理解が不足している生徒が多いことがわかる(問九(2))。

観点別にみた指導の工夫・改善

科学的な思考・表現について	○同じ体積で質量を比べたり、同じ質量で体積を比べたりする実験を通して、体感できる授業(小学校3年の教材を再利用するのも可)も有効です。(問六(2))
観察・実験の技能について	○顕微鏡の操作の順番を変えると、どのような不備が起こるかを考えることで、より正しい操作方法への理解が深まります。(問一(1))
自然事象についての知識・理解について	○実際に鉱物標本等を用いて、斑状組織と等粒状組織の火成岩を観察させ、スケッチなどを行い、確認させていくことが大切です。(問九(2))

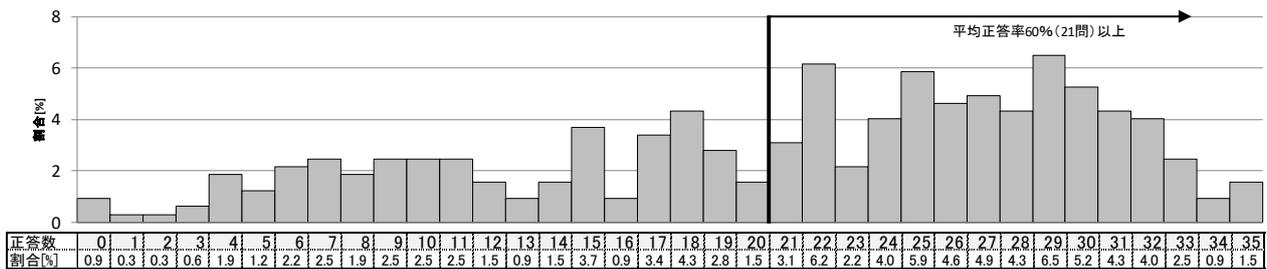
英語

調査児童数	324人
平均正答数	21.2問 / 35問
平均正答率	60.6%
中央値	23問
最頻値	29問

全体的な結果について

- ・英語は、調査生徒数 324 人にて実施をした。その結果、平均正答数 21.2 問、平均正答率が 60.6%、平均正答率が 60%以上の生徒は全体の約 6 割を占めている。
- ・正答率分布をみると、全体的にはほぼ均等な分布となっており、低い正答率の生徒も多いことから、各生徒に学習内容のより一層の定着を図る必要があると考えられる。

正答率分布



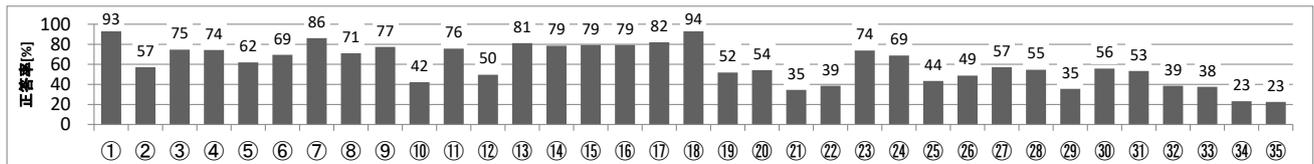
正答率が 80%以上の設問

- ・問一（1）be 動詞の平叙文、問五（3）慣用表現と現在形では平均正答率が 9 割以上であり、良好な結果となっている。

正答率が 40%未満の設問

- ・問八（2）（イ）（ウ）英文の設問はそれぞれ 38.6%、23.1%となっており、文と文のつながりなどに注意して文を書くことについて、多くの生徒が苦手としていることがわかる。

各設問における平均正答率



対応番号	グループ	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎正答率 [%]
				外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
①	問一	(1)	be動詞の平叙文			○	93.2
②		(2)	be動詞の疑問文			○	57.1
③		(3)	一般動詞の疑問文			○	74.7
④		(4)	現在進行形			○	74.4
⑤		(5)	一般動詞の過去形の疑問文			○	62.0
⑥	(6)	疑問詞で始まる疑問文の応答			○	69.4	
⑦	問二	(1)	慣用表現・日常会話			○	86.1
⑧		(2)				○	71.0
⑨		(3)				○	77.5
⑩		(4)				○	42.3
⑪		(5)				○	75.6
⑫	問三	Maki	文字や符号の識別			○	49.7
⑬		Paul	語と語の区切り			○	81.2
⑭	問四	(1)	書き手の意向を読み取り		○		78.7
⑮		(2)	適切に応じる		○		79.3
⑯	問五	(1)	What+名詞 ~?			○	79.3
⑰		(2)	Don't+動詞の原形			○	82.1
⑱		(3)	慣用表現と現在形			○	93.5
⑲		(4)	前置詞ofの使い方			○	51.9
⑳		(5)	2語以上からなる主語			○	54.3

対応番号	グループ	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎正答率 [%]
				外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
㉑	問六	(1)	運用度の高い語			○	34.6
㉒		(2)				○	38.6
㉓		(3)				○	73.8
㉔		(4)				○	68.8
㉕		(5)				○	43.5
㉖	問七	(1)	大切な部分の適切な読み取り		○		48.8
㉗		(2)			○		57.1
㉘	問八	(1)	・文と文のつながりなどに注意した文の記述			○	54.6
㉙		(ア)				○	35.5
㉚		(イ)				○	55.9
㉛		(ア) 英文				○	53.4
㉜		(イ) 英文				○	38.6
㉝		(ウ) 英文				○	37.7
㉞		(イ) 英文				○	23.1
㉟		(ウ) 英文				○	22.5
㊱		(イ) 英文				○	22.5

観点別にみた正答率

観点	設問数	平均正答率	
外国語表現の能力	8問	40.2%	40.2
外国語理解の能力	4問	66.0%	66.0
言語や文化についての知識・理解	23問	66.7%	66.7

・観点別の平均正答率については、「外国語の表現の能力」(8設問)が40.2%、「外国語理解の能力」(4設問)が66.0%、「言語や文化についての知識・理解」(23設問)が66.7%と、一部を除き概ね良好な結果となっている。

・「外国語表現の能力」の各設問について平均正答率を見ると、『文と文のつながりなどに注意した文の記述』に関する問題の一部では正答率が2~3割となっており、単語の綴りや語順が正しく、文のきまりに誤りのない英文の記述を苦手としている生徒が多いことがわかる(問八(2))。

・「外国語理解の能力」については、『書き手の意向を読み取り適切に応じる』に関する設問で79.3%と高い正答率になっている(問四(2))。一方、『大切な部分の適切な読み取り』に関する設問では正答率が48.8%となっており、会話から大切な部分を的確に読み取り、その内容について理解することを苦手とする生徒が多いことがわかる(問七(1))。

・「言語や文化についての知識・理解」については、『be動詞の平叙文』で93.2%、『慣用表現と現在形』で93.5%と高い正答率になっている(問一(1)、問五(3))。一方、『運用度の高い語』に関する設問の一部では正答率が34.6%となっており、短い英文とそれに関連する絵や図を見て内容を把握し、適切な言葉を書くことを苦手とする生徒が多いことがわかる(問六(1))。

観点別にみた指導の工夫・改善

外国語表現の能力について	○授業においては、英文を正しく書く練習をするとともに、文と文のつながりを意識した、まとまりのある「文章」を書く活動も必要です。その際、指導者は具体的にわかりやすい場面や状況を設定したり、場面や状況に合わせた表現を例示したりするなど、指導方法を工夫して授業を進めてください。(問八(2))
外国語理解の能力について	○実際の指導の場面では、意味の分からない単語や連語があっても、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、設問の仕方を工夫したりするなどして、正確な読み取りができるように学習の支援をしながら授業を進めましょう。また、目的をもって読んだり、読んだ後に感想等を表現し合ったりするなどの活動を計画的・系統的に設定することも大切です。(問七(1))
言語や文化についての知識・理解について	○指導する語は、具体的な場面や状況で適切に用いるようにして定着を図ることが大切です。「コミュニケーション能力の基礎を養う」とする観点から、言語活動の中で繰り返し触れながら定着させることが効果的です。 また、この設問の中では、適切な語を適切な形で「書く」ことを目的としています。ingをつけるときの規則性や目的格の変化を身につけられるよう、適する語や形を授業の中で繰り返し目にする場面をもち、馴染ませ、書く習慣をつけさせましょう。(問六(1))